

2010年度春季大会シンポジウム 「災害軽減に向けたシビア現象予測の将来」の報告

はじめに

限 健 一*

近年、大雨や竜巻等の突風による被害が相次いでおり、大雨等の災害を軽減するための確な情報の提供が必要である。気象庁では、2010年（平成22年）5月27日から、市町村を対象とする注警報の発表、雷ナウキャスト、竜巻発生確度ナウキャストといった業務を開始したが、現象が発生する時間、場所、量的レベルについて防災対応に必要な時間を確保して予測する精度にはまだまだ大きな課題がある。このため、シビア現象の予測精度の向上に取り組む一方、現状の予測技術の範囲内で災害の軽減に効果的な情報のあり方についても検討していく必要がある。

そこで本シンポジウムでは、「災害軽減に向けたシビア現象予測の将来」をテーマとして、シビア現象予測に関する現状の取り組み状況の報告、予測技術の今後の展開、情報の利用面からの予測情報のあり方について講演、討論を行った。気象庁予報部業務課長（当時）の永田 雅氏には「豪雨等予測の現状と取り組み」、東京大学大気海洋研究所の新野 宏氏には「シ

ビア現象の理解・予測にむけた課題と期待」、京都大学防災研究所の中北英一氏には「豪雨災害軽減にむけた予測情報」についてそれぞれ講演していただいた。

総合討論では、上記講師の方々とNPO法人気象キャスターネットワークの高田 斉キャスターにパネリストとして参加していただき、科学研究の立場と防災現場の立場の両面から討論をおこなった。大変お忙しい中、講演を引き受けて下さった講師、パネリストの方々、シンポジウムに参加して下さいの方々、そしてシンポジウムの準備と運営に尽力していただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

（編集委員会より：以下の記述内容は原則としてシンポジウム当時のものであり、文中の「現在」等の記述もシンポジウム時点を指します。

諸般の事情により、掲載が遅れてしまいましたこと、ここに心よりお詫び申し上げます。）

* 気象庁予報部数値予報課（現 気象庁総務部）。

—2011年5月9日受領—

—2012年5月8日受理—

The Future of Severe Storm Prediction for Disaster Mitigation
(A Report on the Symposium of the 2010 Spring Assembly
of the Meteorological Society of Japan)

Kenichi KUMA*

* *Numerical Prediction Division of Japan Meteorological Agency, 1-3-4
Ote-machi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8122, Japan.*

(Received 9 May 2011 ; Accepted 8 May 2012)

Contents

1. Masashi NAGATA: Severe Weather Forecasting: Current Status and Developments for the Future.
 2. Hiroshi NIINO: Challenges and Prospects for Understandings and Predictions of Severe Weather.
 3. Eiichi NAKAKITA: Information of Precipitation Forecast Heading to Mitigation of Hydrometeorological Disasters.
-